

佳作

人に優しく

新潟県長岡市立東中学校

3年 若槻 萌

日々の生活の中で「人権」という言葉をよく耳にしますが、皆さんは自分の問題として考えてみたことはありますか。

私には、男の子のいところがあります。その子は3歳で、感情のコントロールがうまくできず、泣いたり叫んだりすることがあります。一緒に買い物に行った時のことです。初めは幼児カートに乗り、楽しく買い物をしていました。しかし、少し暗い雰囲気のお店に入ると「ばいばい、ばいばい」と大きな声で叫んだり、時には頭を上下に振ったりすることもありました。買い物が終わり、カートを返す時には大泣きです。大きな声で泣き、体を反らしたり落ち着くまでに長い時間がかかりました。

このように、場所や周りの空気などを気にすることができません。皆さんは、そういう場面にでくわした時、じろじろ見てはいませんか。その姿を見ると、身内の私もどうしたら良いのか、どうしてあげられるのか悩みます。私の母が保育士として働いているのでこういう時はどのようにしてあげるべきなのか聞いてみました。母は「落ち着くまで待ってあげること。感情をコントロールしようとしているから、見守ってあげることが良いのではないか」と言っていました。私はその言葉を聞いた時、「えっ？ 泣いたり叫んだりしているのに待つのか？ 見守るなんて、周りが気になってできない」と、思ってしまった。実際、いところが泣き叫んだ時、私はいとこをなだめようと名前を呼び続けていました。一番辛い人が目の前にいるのに、周りの目を気にする身勝手な自分に気が付いたように思います。そして、今後の私にできること、心掛けることを考えました。

一つ目は見守ること。二つ目は笑顔でそばにいます。その決意を今後、いとこと遊んだり、出掛けたりする際に実践していきたいと思っています。

そもそも現在は、誰もが過ごしやすい世界でしょうか。私のいとこのようにその場になじめない人を、周りの人はすぐに受け入れてくれるでしょうか。自分らしく生きる権利は守られている世の中でしょうか。

様々な個性を持つ人々とお互いを尊重していくこと、相手の良いところも悪いところも認め合うことが大切です。その点に関して現在は、金子みすゞさんの『私と小鳥と鈴と』という詩や十人十色ということわざからかけ離れていると感じることさえあります。「みんなちがって、みんないい。」「好み・考え・性

格は人によって違う」はずなのに自分と他人を比べ、時には「みんなと同じ」ことに安心感を抱いている人が多いと思います。しかし、誰もが住みやすい世の中にするためには「みんなちがって、みんないい」はずの個性を認め合っていく必要があると思います。

私の夢は英語の先生になることです。世界の共通語である英語を学び、会話ができるようになれば世界の様々な考え方を学べます。目指す先生像としては、「ドラえもん」の登場人物たちのように強い個性や弱さを認め、受け入れられる子どもたちを育てることです。それができれば、ONEチームになれるように思います。まずは私自身が子どもたちと真剣に向き合えるようになるために、世界の先生たちの知識を持ち寄りたいと思います。そして、私の授業を受ける子どもたちの眼差しを、もっと輝かせたいです。

今回、「人権」について考えていく中で、なんとなく分かってきたことがあります。それは、困っている人にとって楽しい社会を目指せば、他の人にとってもより楽しい社会になるということです。助けてもらって嬉しかったことは、自分も誰かにする。言われて嫌だと感じたことは、他の人には絶対に言わない。感謝を言葉にする。そして、笑顔は世界の共通語であることを意識して行動していきたいと思います。私の家の家訓の一つとして「和顔愛語」という仏教の言葉があります。和顔とは「和やかな笑顔」、愛語とは「愛情を持った語り口」と解き、優しい笑顔と思いやりの心を持った語り口の二つを持って人と接すれば怒りを遠ざけ、相手も自然と態度が丸くなって、みんながニコニコできる。形あるものを持たずとも他人の心を安らかにすることができる、という考えです。この言葉をもう一度、しっかりと心に刻みたいと思いました。また、ロシアとウクライナの戦争が一日も早く終わることを祈り、家があること、学校に通えていること、家族と一緒に生活できること、友達と笑って会話ができること。「Be kind to people!」を合言葉に、たくさんの日々の幸せをこれからも大切に、私らしい人生を歩んでいきたいです。一人一人の個性が大切にされ、どんな人も住みやすい世の中になることを願って。